

説明書

(令和5年8月6日作成)

(不誠実対応③)

アルプスの森(施設長:宇津慎史)にホームページにおいて何度も謝罪したと嘘の記載を行っている。

(詳細事項)

アルプスの森(施設長:宇津慎史)のホームページ上において、以下の記載がある。下記「X君」は悠生君の事である。

当事業所は、行方不明となった直後から、X君のご両親に対して何度も謝罪し、

(アルプスのHPより2023年7月8日抜粋)

すなわち、「アルプスの森(施設長:宇津慎史)」は、何度も悠生君の遺族に対し謝罪を行ったと記載している。

しかしながら最後に施設長(宇津慎史)と、悠生君の遺族がまともに会話(電話)を行ったのは、施設長(宇津慎史)が、悠生君の母親(清水亜佳里)に対しクレームの内容が不当であると謝罪要求を行った時(悠生君が見つかった時)である(不誠実対応①の内容)。従って、最後に会話した時は(令和4年12月16日)、アルプスの森(施設長:宇津慎史)」は、謝罪どころか反対に謝罪要求を行っている。

更に悠生君が見つかった時、悠生君の母親(清水亜佳里)が、悠生君が裸であったことをTwitterに記載したところ、それは事実ではないと、誤った情報を基に悠生君の母親(清水亜佳里)に対しクレームをつけてきている(令和5年4月26日)(不誠実対応②の内容)。

これらの件から、少なくとも遺族は「アルプスの森(施設長:宇津慎史)」は一度もまともに遺族及び悠生君に謝罪をした事はないと認識している。そのため、ホームページ上において何度も謝罪したと記載している内容は全くの嘘であると認識している。

悠生君が死亡した状態で発見された日(令和4年12月16日)、司法解剖が終わり吹田警察署に戻ってくるタイミングで、遺族が「アルプスの森(施設長:宇津慎史)」に電話をかけている。この電話において施設長(宇津慎史)は、昼間に児童発達支援管理責任者(宇津雅美)が遺族と約束した通りに、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)と事故をおこした従業員が悠生君に面談するには、悠生君の母親(清水亜佳里)が、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)に対し謝罪することが条件であるとの内容の発言を行っている。遺族としては、「アルプスの森

(施設長：宇津慎史)」側が、そのような条件を付けてくること自体が、「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」側が、悠生君への自発的な謝罪は存在しないことを意味すると認識している。そのため、遺族側は「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」に対し、自発的な謝罪は存在しないことが痛感されたと説明した。その説明に関しての「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」側の出張は以下内容である。

「宇津氏から悠生君への自発的な謝罪は存在しない」「悠生君に対しての謝罪の気持ちはあるのかの確認をしているが、その気持ちはないとのことだったので」とありますが、これらは事実ではありません。宇津及び代表者は、失踪直後から今日に至るまで、清水君への謝罪の気持ちを持ち続けております。

このような謝罪の気持ちがあるからこそ、当社は定期的に、事故現場に献花を行い、手を合わせに行っております。

(回答書(令和5年7月7日作成)より一部抜粋)

しかし現実として、悠生君のお位牌や遺骨、悠生君の遺族に直接会っての謝罪は一切していない。勿論、悠生君の遺族に対して、電話などで直接会話して謝罪をした事もない。すなわち、遺族の直接目に見えないところで、事故現場に定期的に献花をし、手を合わせに行っている。「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」としては、何度も謝罪していると認識しているとの事である。

さらには、「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」が「定期的に事故現場に献花を行い、手を合わせに行っています。」との記載に関しても捏造だと遺族側は考えている。その様に遺族側が考える理由は、「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」は事故現場に近いにも関わらず、状況を理解していないことが上記文章でも読み解けるからである。

悠生君の母親は情報収集と献花の為、事故現場にほぼ毎日、通っていた。その時、時々、事故現場に献花がなされていた。しかし6月までの間は、誰が献花してくれたかを把握しており、電話やSNS、さらには直接会って感謝の気持ちを伝えていた。

しかしながら、関西テレビが本事故に関し放送をした後頃から、誰がしてくれたのか不明な献花が出現して来た。従って、事故現場に「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」がもし献花をしたとしても、その献花をし始めたのは少なくとも、事故の半年以上経ってからである。

あまりにも、このホームページ記載の内容が、現実と大きく離れているので、具体的に誰

が誰に対し謝罪をしたのかを「アルプスの森（施設長：宇津慎史）」に確認したところ、「アルプスの森（施設長：宇津慎史）」からは以下内容の返答（回答書(令和5年7月25日作成)が送られてきた。

「何時」「どこで」「誰が」「どのような形」で謝罪したかについては、概ね下記のとおりです。但し、これらは現在の記憶に基づくものであり、記載したもの以外には謝罪の意思を示していなかったという趣旨ではございません。また、清水君に対しては現場で手を合わせるなどして、日々謝罪しております。

記

令和4年12月9日 代表者が清水亜佳里様にお電話で謝罪

代表者が河川敷で清水亜佳里様に謝罪

宇津が河川敷で清水様に土下座して謝罪

同月10日 代表者、宇津及び尾崎が河川敷で清水様に土下座して謝罪

(回答書(令和5年7月25日作成)より一部抜粋)

すなわち、明らかに遺族側が認知することが可能な、「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」側が行ったとする悠生君が死亡したことに対する謝罪は、事故当日とその翌日のみである。

その後の悠生君が死亡した状態で発見された日(令和4年12月16日)には、「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」側は悠生君の母親に対し謝罪要求しており(不誠実対応①の内容)、Twitterでの記載に関しても不適切なクレームをつけてきている(不誠実対応②の内容)。

従って、上記内容で何度も謝罪を行ったと公に説明できると考えている事が、社会通念上、常軌を逸していると思われる。

この「アルプスの森(施設長：宇津慎史)」態度は、如何に悠生君の命を奪った事故に対し真摯な態度を示すつもりがないのかを説明しおり、如何に障害の持った悠生君の命を軽く考えているかが解る。